

子どもの表現力を向上させるための新聞活用のあり方

実践校第2年次 飯山市立木島小学校 大澤 幸

1 本校のNIEの現状

(1) 2007年4月のNIE活動に関する学校全体の準備状況

昨年度、5学年でNIE活動を推進し、学校を紹介する新聞を作った。

(2) 主として研究の対象となる授業学級のNIE活動の準備状況

4月、国語の授業で、新聞記事の中から自分の気になる記事をスクラップし、学級全体に紹介し、掲示した。2学期になり、NIE活動を推進する学級になった。

(3) 教師集団のNIEに関わる取り組みの様子

国語の単元などで、新聞記事を扱った内容についての情報交換をしたり、6年生の歴史新聞作りの実践例を知った。

(4) 新聞に関わる物的な状況

11月1日から12月31日までの2ヶ月間、一般紙4紙と子ども新聞2紙を購読した。

(5) 児童生徒に伸びて欲しいと願うこと・期待できそうなこと

新聞に関心をもったり、社会事象に関心をもったりして欲しい

漢字の能力を高めたり、文章の読解力を高めたりして欲しい

自分の考えを発表したり、友達の考えの良さを認めたりして欲しい

2 NIEを通して高めたい力

(1) 新聞を学習に取り入れることで、新聞そのものやいろいろな社会事象に関心をもつ。

(2) 記事を読んだり、記事を紹介したりする活動を通して、漢字の能力を高めたり、文章の読解力を高める。

(3) 記事の内容を読んで発表したり、学級で考えていきたい問題を絞っていく活動を通して、自分の考えを発表したり、友達の考えの良さを認めたりする能力を高める。

3 研究の概要

(1) 実践した教科等 国語・社会

(2) 新聞の提供状況

教室の外側のワークスペースに長机を2つ置き、そこに、一般紙4紙（信濃毎日新聞・読売新聞・産経新聞・日本経済新聞）と子ども新聞2紙（毎日子ども新聞・朝日子ども新聞）を毎日置いておく。一日2人ずつ、上記6紙の中から自分が発表したい記事を選んで朝の会や帰りの会に発表する活動をした。

(3) 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫したこと

朝の会や帰りの会で、その日の新聞の中からみんなに紹介したいと思う記事を選んで発表する機会を設け、着眼点の良さや選んだ記事についての補足をして新聞や社会事象に対する興味を持たせた。

社会科の「情報が結ぶ世界」の導入として、一日分の一般紙の中から記事を選んで紹介す

る活動をし、そのスクラップ記事を教室に掲示した。

国語科「5年生からの提案」で、新聞記事の中からグループで調べていきたい内容の記事を選び出し、その抜粋をワークシートにまとめ、その中から自分の推薦する記事をグループ内で発表し合い、グループの追究内容を決めだしていく。

4 具体的な事例の紹介

(1) 教科の力を高めるための補助教材としての学習の例

「情報が結ぶ世界」の導入として、新聞から得られる情報を確かめた事例

わたしたちを取り巻く情報の一つとして新聞を使い、新聞から得られる情報を考えた。

まず、新聞の価格・題字の背景の模様・一番大きな活字・一番小さな活字等を、一般紙一日分の新聞から探した。次に、「すべてのページに掲載されているものを探そう」という課題で、新聞広告はすべてのページにあることを確認した。そして、最後に、一番気に入った記事を紹介するために、記事を選んで切り抜き、台紙に貼って、教室に掲示した。子どもたちは、「新聞についていろいろ知らなかったことがわかり、楽しかった。」と学習後の感想に書いていた。

(2) メディアリテラシーの高揚につながる学習の例

(実施せず)

(3) 新聞づくりを通じた総括的な新聞利用学習の例

研究実践した「5年生からの提案」の単元で、グループで追究したい記事内容を選び、その内容をより広く深く追究して、級友や保護者に発信するために、追究内容をグループ内で分担して調べ、記事にまとめて、壁新聞として模造紙に張り出して、掲示して発表した。

5 実践学級の単元学習「5年生からの提案」から

(1) 単元「5年生からの提案」に行きつくまで

本学級の子どもたちは、11月から新聞の購読を始め、自分の気に入った記事を発表したり、気に入った記事を台紙に貼りコメントをつけて教室に掲示したりしてきた。記事を選ぶ際には、気に入った写真があるとかその時話題になっていることや興味がひかれる内容だったといったことが中心で、記事をじっくり読んで追究する内容を決め出すということはほとんど経験がなかった。そこで、2月の学習発表会に向けて、グループで追究していく内容を決め出すために、追究し甲斐のある内容の記事を子ども新聞の中から選び出し、話し合う活動をしていきたいと考えた。グループで追究することを念頭に置いて新聞を読んでいけば、記事の内容について吟味するようになり、また、自分の推薦記事を決め出す過程で、分担して調べるという観点から記事内容を見返してランク付けでき、さらに、グループ内で意見交換することを通して、相手の話のポイントをつかむことができるようになるのではないかと考えた。

(2) つけたい力の決め出し

自ら推薦したい記事を選び出し、記事の要点をワークシートにまとめ、グループ内で推薦するための文章を端的に書くことができる。

学習発表会の発表を念頭に置いて、グループで追究する内容を話し合い、決め出すことができる。

(3) 新聞を扱う上での創意工夫

子どもが、各々自分が推薦する記事を選び出す際、10分ずつ5回、朝の時間などに新聞を読む機会を設定し、記事の推薦ポイントを記録する。

蓄積した新聞記事の抜粋のワークシート中から、最も推薦したい記事を選び、推薦文を完成させる。

グループとしてどの問題を追究するかという問題意識を持って話し合い、グループとしての結論を出し、分担して追究し、壁新聞にまとめて発表する。

(4) 単元展開

単元のねらい

学習発表会で発表する内容を決め出すという目的を持って、新聞記事を選び、推薦する文章を書く。そして、グループ内で発表し合い、意見交換しながら協力して話し合い、グループの発表内容を決め出す。

単元展開

時	学 習 活 動	教師の指導・支援
1 (10 × 5)	・ 子ども新聞を読み、グループで追究したい内容の記事を選び、その記事のポイントをワークシートにまとめる。	・ 記事のポイントが見やすいようにワークシートに箇条書きでまとめるよう指導する。 ・ 選んだ視点の良い点を朱書きする。
2 (40)	・ ワークシートの中から、最も推薦したい記事を選び出し、推薦文を書いて発表の準備をする。	・ 記事の内容から、グループ員が分担して調べられそうな項目がいくつか紹介できるように、推薦文の書き方を指導する。
3 本 時 ・ 4	・ グループ内で、自分が選んだ記事を紹介し合い、お互いに質問したり感想を言ったりして、自分たちのグループで追究していく内容を決める。	・ グループ員に実際の記事を見せながら紹介できるようにする。 ・ 友達の発表が聞けるように、見出しだけ書いたワークシートを用意し、メモしながら聞き合うようにする。

(5) 本時の活動

主眼

自分が紹介する記事を選び、紹介文を書いた子どもが、グループの中で発表したり、友達の発表を聞いて意見交換することを通して、自分たちが学習発表会に向けて追究していく記事内容を決め出す話し合いに積極的に参加することができる。

展開

段階	学 習 活 動	教師の指導・支援
導 入	<p>1 発表の仕方と評価の仕方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が紹介する記事はどんな内容かな。 ・いろいろと調べることが分かれてくるから、分担して調べられそうだな。 ・調べて見たいから だな。 ・難しそうだから だな。 	<p>拡大した記事を黒板に掲示し、記事の概要と推薦ポイントを発表する。</p> <p>発表に対して、質問を受け、それに対して答える。</p> <p>ワークシートに簡単に感想を書かせた後、評価を書かせる。</p> <p>班長に発表順を確認して、グループで発表し合えるように準備させる。</p> <p>発表する子に記事を準備させる。(10)</p>
展 開	<p>2 順番で発表し、発表に対する質問に答える。</p> <p>発表を聞いて、わからない点を質問し、ワークシートに簡単な感想と の評価を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦記事の概要と推薦ポイントを発表する。 ・質問に対して、できるだけ詳しく答える。 ・わからないことを質問する。 ・発表に対して簡単な感想を書く。 ・自分たちがこれから調べていって発表するという視点で、発表内容に対して の評価をつける。 <p>3 ワークシートを見返し、話し合いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたいのは、やっぱり自分が選んだものかな。 ・でも さんののも調べてみたい。 	<p>一人当たり発表4分・質問2分・評価1分をおよその目安として、一人7分で 発表が終わることができるよう時間を告げる。</p> <p>班長の司会進行をサポートするようにグループをまわって班別指導する。</p> <p>質問された内容がわからない場合は、発表者がメモをしておき、後で調べるように助言する。(35)</p> <p>2時間扱いなので、およそ4人の発表が終わったところで、次時に続きを行うことを告げる。</p> <p>最後に、全体を通して質問や意見交換の時間を確保し、疑問点を残さないように配慮する</p> <p>ワークシートを見返す時間を確保し、グループで学習発表会に発表する内容として、 の評価をした内容の中からいいと思うものを選ぶようにさせる。(25)</p>
終 末	<p>4 グループで追究する内容を話し合って決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さんの内容を調べてみたい。 ・多数決で決めよう。 ・みんなで分担して調べられるからいいね。 	<p>追究したい内容について意見を出し合い、意見が分かれた場合は、多数決で決めるように指示する。</p> <p>決まった内容について調べる分担をして、どういう方法で調べて発表するかについて話し合う時間を確保する。</p>

評価

ア 自分の推薦する記事をグループ内で友達にわかるように発表しようとしている。

イ 話し合いの中で、質問したり、感想をまとめたり、友達の考えを受け入れたりして、積極的に参加しようとしている。

(6) 児童生徒の様子から

子どもが選び出した記事

子どもたちは、2月の学習発表会の時に、グループで調べて追究し、発表したい内容を子ども新聞から選び出す活動を積極的に行った。5グループに10日分の記事を配分し、グループ内で新聞を回し読みしながら、自分の注目した記事を選び出していった。

子どもたちは、自分の興味に合わせて様々な記事を選択してきた。表1は5班の選択例であるが、同じ記事を選択したのは「もうすぐクリスマス」という、南半球のクリスマス様子の記事と、「目にはいると危険(消石灰)」という、ライン引きに使われる消石灰の危険性の記事の2つであり、子どもたちの興味が多岐にわたっていることがわかる。スポーツが好きな子は、スポーツに関する記事を多く選択しており、動物が好きな子は、動物ものの記事を選択していた。また、発表を意識して、みんなに伝えたいと考える環境問題に関する記事については、いろいろな点から選択されている。このことは単に自分の好きな記事を選ぶのではなく、学習発表会で、親や友だちに発信するという意識が働いていると思われる。また、多くの場合、記事に使われている写真の見栄えが選択に影響していた。自分の推薦する記事として紹介する場合、写真で引きつけることが有効な手段であると考えたからではないかと思われる。

表1 5班の選択例

見出し	人数
生きた化石解剖	1
もうすぐクリスマス	4
他の鳥のえさを横取りする「海のワシ」	1
生ゴミもリサイクルできる	1
目にはいると危険 消石灰に注意	3
守ろう世界の環境	1
夢に見たいな	1
三浦さんエベレストへ	1
途上国では3秒に一人亡くなる	1
絶滅したトキ再び自然へ	1
海の友だち	1
火星のクレーターに日本人の名前	1
サンタのおくりもの	1
空の不思議	1
松坂投手海を越えて活躍	1
高校駅伝	1
落第忍者乱太郎	1
手作りキットで小物作り	1
卵の取りすぎ	1
家電メーカー出張授業	1
東京マラソンに3万人	1
中越沖で地震	1
夜空を彩る光のカーテン(オーロラ)	1

記事の絞り込みと推薦文

五日間かけて選んだ5つの記事の中から、グループで追究するのに値する内容の記事を選び出す際、次の3点のフィルターを通して記事を見直していくよう指導した。それは、

- ア グループ員が分担して調べる内容をもっていること
- イ 学習発表会で親や友達に発信する内容を含んでいること
- ウ クイズが作れること

である。

右表 2 は、Y 児が選択した新聞記事の一覧表である。Y 児は、音楽が好きで、環境や福祉問題にも興味があるので、記事の選択も、自分の興味に合わせて選んでいると思われる。そして、その中で、グループで追究する内容として選んだのは、第一日目の記事である『スクールバスをツバルへ』なのである。

資料 1 は、Y 児の推薦文であるが、まず記事の概要を説明した後推薦文真ん中ほどの(ア)の下線部分で、上記 3 点のフィルターを意識して、推薦ポイントを書いている。さらに、グループの構成員が 6 人であることを考えて、～ の分担する内容を挙げて紹介しようとしたのである。このような推薦文を書くことで自分の言いたいことを明確にしたりこの記事の良さを再確認したりすることができるので、グループ内で自信をもって発表できるのではないかと考える。さらに、グループ内で分担して調べることを、これだけ意識して推薦文が書けると、次に他の友だちの推薦文を聞いても、分担という視点から友だちの発表を評価したり、意見交換したりするのに役立つのではないかと考えるのである。

表 2 Y 児の選択した記事

順番	新聞日付	選択した記事の見出し
1 日目	11/20 (毎日)	スクールバスをツバルへ
2 日目	11/18 (毎日)	原因はアメリカにある(バイオ燃料)
3 日目	11/13 (朝日)	音楽で遊ぼう
4 日目	11/15 (朝日)	小さくなる湖(アラル海)
5 日目	11/19 (朝日)	ユニセフを学ぼう

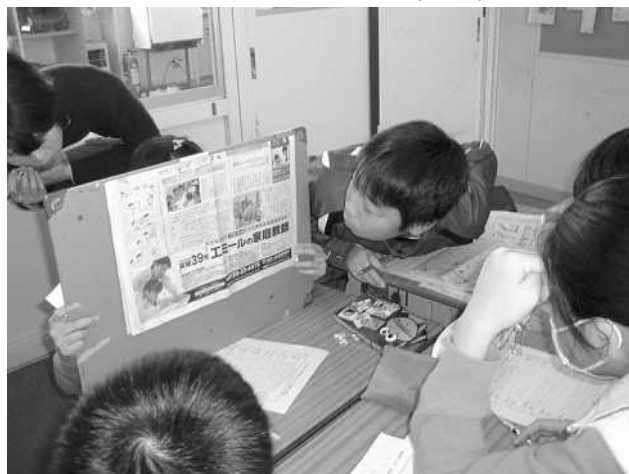
資料 1 Y 児の推薦文

ツバルという国はあまり知られていませんが、そのツバルという国のことを発表します。人口が約一万人のツバルに一台しかないスクールバスがこわれたという話を聞いた宇都宮青年会議所が「何かできることはないか」と考えて活動が始まりました。青年会議所OBと中高生のボランティアサークル「宇都宮未来クラブ」の二十人が、バスに色を塗り始めました。雨でも落ちにくい水性塗料を手のひらに塗って、手形押しを繰り返し、重ねぬりをする方法で色を塗りました。(ア)ツバルの人達を助けようという気持ちでバスが作れてすごいと思ったから、この記事を選びました。また、左側側面の中央に何という言葉を書いたのかというクイズにしたり、他にこういう事を必要としている国はあるのかや、わたしたちにどんな事ができるかも発表できると思いました。分担については、助けを必要としている国の名前や必要なもの、わたしたちにどんなことができるか、スクールバスの輸送費などが240万円かかるが、一口一円のぼ金は集まったのか、宇都宮青年会議所は他にどんな活動をしているのか、ツバルという国はどんな国なのか、バスを作った人の声など、と分担できると思います。いろいろなことをこの記事から発表できると思い、この記事を選びました。

グループで追究すべき記事の決定

今回の授業研究会の本時の場面が、このグループ内で自分の推薦する記事を発表し、グループ員の発表を聞いて、その中から、グループの発表内容を決定していくことだった。

写真1 グループ員の発表(1班)



グループ内で発表する順番を決めて、発表者が、ボードに新聞記事を固定して見せながら、推薦文を読んでいった。そのあと質問の時間をとって、推薦記事の内容をグループ員が共通理解していった。

内容に疑問があったら、発表者に質問したり新聞記事をよく見たりして、情報交換の時間を取り、それが終わると、発表の要旨をカードに記入し、さらに、記事に対する評価を書いてから次の発表者に変わっていった(写真1・2)。

全員の発表のあと、学習発表会で発表する新聞記事の内容を、話し合いで決めていった。表3は5班の発表例であるが、グループ員7名中、3名が同じ記事「(運動場のライン引きに使う)消石灰に注意」を推薦したにもかかわらず、グループで発表する内容は、「夜空を彩る光のカーテン」のオーロラに決定した。このように決めだした要因は、グループで分担して調べていった時、消石灰の記事の内容では、分担して調べる内容が人数分あるのか、調べていくうちに深まっていくものがあるのかというグループ追究の視点によるものであった。それに比べて、「夜空を彩る光のカーテン」のオーロラのは、わからないことがいろいろあるし、写真がきれいで、見栄えがするということが決定の要因になったのではないかと思われる。発表会での発表という設定がグループでの追究内容決定に質的な要求をもたらし、グループ員の追究動機を高めていったと考える。

写真2 グループ員の発表(5班)



表3 5班の発表一覧

班員	紹介した記事の見出し
H児	消石灰に注意
M児	松坂投手海を越えて大活躍
M児	消石灰に注意
S児	夜空を彩る光のカーテン
Y児	消石灰に注意
A児	絶滅した鳥トキ再び自然へ
R児	もうすぐクリスマス

グループでの追究と壁新聞作り

子どもたちは、決定した発表内容をグループ員で分担して、より詳しく調べたり、発表用に調べた内容を加工したりして壁新聞にまとめていった。

5班は、表4のように7人の班員が、オーロラについて調べたいことを分担して調べていった。主としてインターネットを使って検索していったのだが、オーロラの高さがインターネットではわからなかったので記事(朝日小学生新聞 12/27 日版)を掲載した、北海道の「りくべつ宇宙地球科学館」に直接電話をかけて、オーロラの高さについて教えていただいていた。その情報をもとにクイズを作り、発表に備えていった。個人が調べた内容は、基本的には原稿用紙に書いた記事を模造紙に添付し、特に注目して欲しいものについては、マジックで大きく書いたり、写真を貼ってアピールしたりして工夫してまとめていた。サブタイトルとして、「オーロラの謎を求めて」とつけて壁新聞を完成させた。

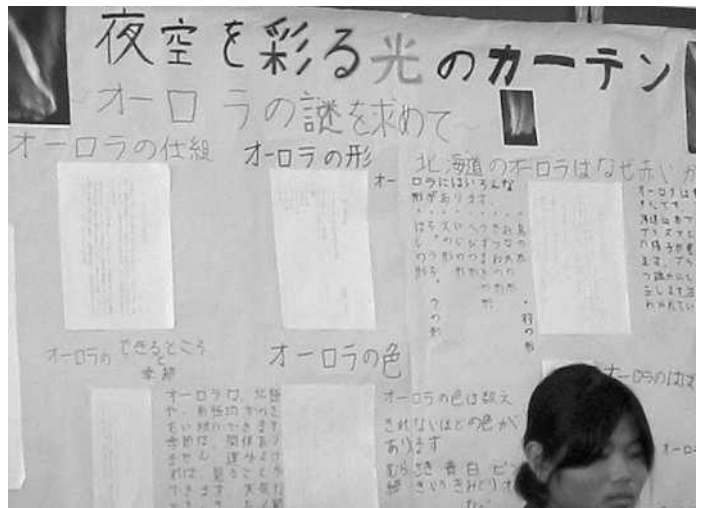
表4 5班が分担して調べた内容

オーロラの仕組み
オーロラの形
オーロラの色
オーロラのできるところと季節
オーロラの幅
オーロラの高さ
北海道のオーロラはなぜ赤いか

学習発表会での発表

2月22日(金)に学習発表会を開催し、多くの保護者の前で、自分たちが調べてきたことを発表した。発表のあと、他の班の子どもたちや保護者の方から質問を受け、自分で答えられる範囲で質問に答えていた。5班の場合、「どうしてオーロラの色が違うんですか?」「オーロラが一番よく見えるのはいつですか?」「北海道のオーロラが赤く見えるのはどうしてですか?よくわからなかったので教えてください。」など、難しい質問が多く出されたが、持っている知識の範囲で正直に回答し、わからないこと

表3 5班の発表の様子



に対しては「わかりません。」と答えていた。表5のように、他の班も、自分たちで調べたことを自信をもって発表し、質問に対してもできるだけ答えようと努力していた。

表5 各班の発表したこと

班名	発表したこと
1班	ユニセフを学ぼう
2班	地球温暖化
3班	新型インフルエンザについて
4班	アフガニスタンハンドセル
5班	夜空を彩る光のカーテン

今回の実践は、子どもたちの意欲が継続したように思われる。個人が選んだ記事の中から、自分たちで発表する内容をきめ出し、グループ内で分担し、個人やグループで協力して調べられるだけ調べて、個人が自分で調べたことを生かして壁新聞にまとめて発表していくという活動は、個人とグループのやりたいことがうまく融合して、意欲の継続につながったのではないかと思われる。そして、その意欲がたくさん笑顔が見られた発表につながっていったと考える。

(7) この授業を通じて授業者が学んだこと

子どもの興味を重視した授業展開の大切さ

今回の「5年生からの提案」実践では、子どもの興味を大事にして授業を展開しようと考えてきた。まず、記事を選ぶ段階で、子ども一人ひとりが、自分が気に入った記事をストックしていく。次に、その記事ストックの中から、グループで追究したい内容の記事を自分で選び、その推薦文を書く。そして、グループの中で、自分の選んだ記事の推薦文を発表し、さらに、他のメンバーの発表も聞いて、それらの中からグループで追究すべき内容を自分たちで話し合っ決めて。その上で、調べる内容を分担し合っ、個人追究やグループ追究をしてまとめたものを、グループ全体のバランスを考え、壁新聞に添付したり、書き加えたりしながら、掲示用の壁新聞を完成させる。個人で追究したものが土台となっ、その土台の上に、子どもたちが納得したものを、友だちと協力しながら構成していく。こうした学習過程が、子どもの追究意欲を持続させ、自信をもって発表していくようになることがわかった。したがっ、新聞の記事は、その個人で追究する土台を作り上げるための、多様な情報源であるといえると思う。

個人追究の出発点となる子ども新聞の記事の情報

子ども新聞の記事は、世の中に起っっている事象や事件を、子どもにわかりやすいように写真やイラストを使って説明してあったり、やさしい語句を使って表現してあったりするので、語彙が不足している子どもにとっては、有効な情報源になる。子どもが、自分の興味あることに関係ある記事を選んだり、知りたいと思っっていた内容の記事を探したりする際に、子ども新聞は一般紙に比べて子どもにとって接しやすいという利点がある。新聞記事そのものを発表するのであれば、内容理解が十分でなくても紹介することは可能だが、選んだ記事から、その記事内容にかかわることを更に追究していこうとする場合、内容理解が不可欠である。その意味で、文章の読解力の育成することにも適しているし、関係情報を集める情報処理能力を育成することにも適していると思われる。実際、関連する内容を図書館の本などで調べたり、インターネットで検索したり、新聞に出っいた情報先に電話をかけて情報を得たりと、多様な追究活動が見られたのも新聞記事が良い情報源になっっているからだと思う。

6 研究のまとめ

今回、NIE活動を実践したことで、子どもたちが、今までより家で新聞をよく読むようになったり、新聞の記事を読むことが楽しくなったり、他の新聞の情報が知りたくなったりと情報に対する興味が高くなるようになってきている。また、もっと漢字を勉強して読めるようになりたいと感想を書いた子もおり、新聞を題材にした学習を展開することが、学習意欲を喚起することがわかった。

また、グループ活動を展開する時にも、グループ員それぞれが、自分の大事な「もの」をもった上で活動に参加するので、活動と自分との関わりが密接になり、意欲的に活動することがわかった。また、ある程度追究すると、わからないことははっきりしてくるので、その疑問を解明するために、様々な方法をとっ追究し、わかる喜びを味わえることもわかった。

さらに、追究段階で、知りたいと思っ情報がなかなか手に入らなったり、インターネットの情報が難しいと言っことを実感したり、直接電話するという方法は、案外、情報を入手する

上で有効であるとわかったりするなど、情報入手のさまざまな面を経験することができた。

このように、今回の「5年生からの発信」のようなNIE活動は、総合的な学習の有効な実践例であると思われる。今後とも、総合的な学習を展開していく上で、このような手法を段階に応じて組み入れていけば、子どもが意欲的に、集中力を持続させて活動できるのではないかと考えている。

7 残された課題

(1) 教科のつける力を明確にした活動

今回、教科は国語で実践したのだが、新聞をいかに有効に活用するかに重点を置いたため、国語の教科としても目標をしっかりと設定して実践することができなかった。そのため、個人の書く能力が向上したのかどうか、知識・理解力が高まったのかどうかを評価することが難しかった。もう少し、教科としての色を濃くして実践したら、国語の教科目標を達成するのにも、新聞は有効な素材となると思われる。

(2) 壁新聞の質的な向上

学習発表会で使用した壁新聞は、個人追究した内容を添付することを中心とした、発表を意識した新聞だった。つまり、発表する内容を理解しやすくするために作成したので、見出しの決め出しや記事の文章構成などの吟味をしなかった。長期間掲示しておくためのものならば、上記の点を改善して作成することが望ましいと考える。さらに、そのような活動をすれば、書くという活動の文章表現力が高まると思われる。

(3) 子どもの嗜好と記事選択の相関性

今回は、子どもが自分が推薦する記事としてどのような記事を選択するのかという点に関しては全く研究しなかった。子どもたちの記事選択の要因について研究するには、子どもそれぞれの興味・関心をあらかじめ分類しておき、それと選んだ記事との関係から、常に興味を持っているものを選ぶのか、その時に話題になっていることを重視するのかなどのがわかってくると思われる。そして、記事内容と写真のどちらをどのくらい重視するかといった関係性も新たにわかってくるのではないかと思われる。